(様式1)

自己評価票

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本とし、各職員が地域密着型サービスの役割等を反映できるよう、常に考えているがまだ作成までに至っていない。	○	職員会議等で話合いを設け、グループホーム独自の理念を今年度中には作り上げたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の基本理念をグループホームの玄関に掲示して、全職員の周知を図り、理念を日々のケアに反映させている。	○	グループホーム独自の理念を作成し日々のケアに反映させていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入居時・面会時に、法人の基本理念に添ってサービス提供をしている事を伝える努力はしている。また、地域に対しては、グループホーム便り等を配布して伝えるようにしている。	○	グループホーム独自の理念を作り上げ、積極的に地域の集まりやイベントに参加し、出来るだけ早目に理念の浸透を図っていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	夏祭り等行事参加を呼び掛けたり、散歩時に挨拶をする等している程度の付き合いはあるが、気軽に立ち寄って貰えるような日常的な付き合いはない。	○	行事参加の呼びかけ以外に地域への貢献について考えていく必要があるので、もっと地域の活動等の情報を取り入れ、参加出来る活動には、積極的に参加していきたい。また、地域の方々が集まれるように、例えば認知症普及活動の一環として、認知症に関する勉強会等も積極的に開催していきたい。

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等を通じて評価のねらいや活用方法を職員全体に周知し、評価結果については、職員会議等で話合い、改善策等を考え、サービスの質の向上に取組んでいる。	○	今後も全員で自己評価に取組みサービスの質の向上及び確保に努めたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。グループホームの活動内容及びサービスの内容を報告し、話合い、そこでの意見を今後の利用者のサービスに反映させている。	○	家族の出席者が少ない状態である為、ご家族の出席を積極的に呼び掛ける必要あり。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営のあり方やサービスのあり方において判断に迷ったりした場合は、助言を求める電話を掛けたり、市役所へ出向いている。	○	現場の実状などを共有できる様に今後も連携していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加し、権利擁護・成年後見制度について学んではいるものの、全職員に周知されていない。	○	研修会参加後、職員全員が周知出来るよう、研修会参加者による研修内容発表会、及び勉強会を開催していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について直接学ぶ機会は少ないものの、会議等で虐待のないケアについて話し合い、理解を深めたり、マニュアルを整備し、どういった処遇が虐待に該当するか事業所内で勉強会を行っている。	○	高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会を多く持ち虐待の無いケアを提供していく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時については、重要事項説明書・契約書を十分に説明し、納得した上でサインしてもらう。解約時及び退居時は、退居先の情報提供も十分に行い、不安な点や疑問な点について、十分に説明を行い理解と納得をしてもらっている。	○	情報提供項目や理念等も今後、利用者・家族に説明し安心して頂けるようにする。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話から不満・苦情を察する努力をし、それらを運営に反映させている。	○	利用者の意見・要望を運営に取り入れる話し合いを行いサービス向上に取組み、広報等に記載し改善の経過や結果を伝えていくようにしていく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報紙及び電話連絡・面会時に利用者の状況を報告、又金銭に対してもご家族に領収書の確認等を行ってもらっている。	○	家族が安心して頂ける様にこまめに連絡を取り合う機会を増やしていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては意見・不満・苦情等入所時・面会時何でも良いと伝えている。又、それ以外にも要望・希望でも良いと伝えている。	○	家族の立場に立ち、不満・苦情は出しにくい状況を理解し、言い易い雰囲気を作る為、これからも積極的にコミュニケーションをとっていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や提案についても、利用者とってより良いサービスに繋がるものに関しては、反映させる様にしている。	○	これからも職員が意見を出しやすい雰囲気を作りをしていく。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化・要望に柔軟な対応が出来るよう、心掛けて、勤務調整を行っている。職員の急な休みにも対応出来るよう、人員は確保している。夜間は2ユニットを1人で対応するので、場合によっては柔軟な対応が難しいことがある。	○	利用者や家族の状況の変化・要望に今後も柔軟な対応が出来るよう努めていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限であり今年度、3Fでは1名の退職者がおり、利用者も退職者がおり、送別会を開く等し、利用者へのダメージは少なかった。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修があれば可能な限り参加させてはいるものの十分ではない状況であり、年間研修計画を作成するまで至っていない。	○	外部研修会参加者を増やしていき、事業所内部における研修会と合わせたの年間研修計画を作成していき、職員の向上心を高めていきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場は、ほとんど研修以外には無い状況であるが、一部の職員については情報交換している。	○	他同業者の見学及び情報交換の場を増やし、情報交換の場やネットワーク作りを構築していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、気分転換できる休憩室も確保している。常に職員の表情しぐさには気配りし、職員同士の人間関係を把握するように努めている。	○	仕事面や人間関係での悩みやストレスについて、管理者や衛生管理者等との話し合える機会や環境作りに努めていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	所有資格や研修の修了課程に応じ、本人の意向を確認しながら職場内で活かせる労働環境作りがされている。	○	各職員が向上心を持って働けるように、自己評価等を行い個々が目標を持ち、働き続けられる環境作りをし、その成果により、運営者に評価してもらえるようにしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族等への説明は、ケアマネージャーが行っているので、あまりグループホームとしては、直接相談等を受ける事は少ない。しかし、利用者本人が安心して暮らせるように入居時十分な説明をしている他、入居者の不安な状況を理解し、話をよく聞くことで信頼関係を築くように努力している。	○	出来るだけ、入居前に施設に本人及び家族に、直接居室等の環境を来設し見ていただき、困っていること、不安なこと、求めていること等を聴ける機会を作っていきたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が求めていることを出来るだけ早く見極め、理解し、その時の状況を考え、他事業所とも相談し本人に説明して、十分満足していただけるサービスの提供に心掛けている。	○	本人の思いや不安を受け止め、的確に把握し支援できるように、対人コミュニケーション能力を高めていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅や病院等を訪問し、本人と面会し、ホームの状況等を利用者の視点に立って説明し、柔軟に支援している。出来る限り、ホームに見学に来ていただいてから、利用していただけれるように心掛けている。	○	利用者の家族等と相談しながら、施設見学や体験入居・共用型認知症デイサービスの利用をできるよう、一人ひとりの状態に合った形で対応していきたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が一緒に日常の作業（調理・清掃・裁縫等）を行い、お互いに協働しながら和やかに支え合える場を作り、より良い関係を築くように努力している。	○	利用者は人生の先輩であるという尊い思いを持ち続けながら、本人の思いや喜怒哀楽を共有しながら、和やかに生活が出来るような環境作りや声掛けをしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方が通院の際には、出来るだけ家族の方に対応してもらい、本人の状態が分かるように努めている。また、行事等に関しても家族にも案内をし、参加を促し、共に共感できるセッティングをしている。	○	利用者と家族が共感できる機会作りをして、職員と家族が協力しながら、利用者を支えていく支援に努めていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・入居者の関係を理解し、入居後の状況について、お手紙や電話連絡等し、近況を理解してもらい、家族との関係が途切れないようにしている。また、外泊・外出等の支援等を進め、より良い関係の継続に努めている。	○	職員は、本人と家族との繋がりが途切れないように、より良い関係の継続に努め、家族の役割を明確にしていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者については以前いた地域、施設の方と交流できる様進めている。	○	家族・友人との関係を知る必要があり情報収集に心掛け、利用者の生活歴等を大切にしながら、地域等馴染みの人や場所との関係継続に努めていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係をより良いものとする為に、時には職員が話題を提供する等の工夫をしている。	○	個人個人の性格等を把握し、利用者同士が支え合えるような、支援が出来るようセッティングや声掛けをしていきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し、移動先が同一法人内であれば利用者への面会や利用者同士の交流が見られている。	○	家族との関係は契約終了後途切れてしまうことが多い為、ホーム利用中から、信頼関係を築き、困った時に頼れる存在になっていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーション等から一人ひとりの希望や意向について、把握するように努めている。困難な場合は、家族の方から情報提供していただき、できるだけ本人本位に支援するように努めている。	○	一人ひとりの希望や意向について、常に本人の立場に立ち検討し、明確に把握できない場合にあっては、曖昧なままにしたり、決めつけてしまわないように注意を払っていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及び面会時等、ご家族様からの情報や入居者からの情報収集に努めている。	○	生活歴等を把握することの意味と重要性を十分に家族にっ説明して、小さなことでも情報提供してもらうようにする。また。プライバシーの保護には、十分に気をつけるようにしたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者本位に考えその利用者の生活リズム、その時の現状を職員全員で話し合い考え把握に努めている。	○	利用者の「できない」という情報にとらわれずに、出来ることややれれるところ等、プラスの面をしっかりと捉え、その人の全体像を把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護作成計画には利用者・家族の意向を聞き、ケース会議を開き、意向が反映されている介護計画を作成している。	○	家族に意向を聞くものの要望等が少ない状況である為、要望を話し易い雰囲気作りをしていく。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、3ヶ月毎に見直し、家族・本人に了解を得ているが、家族・本人の状態に変化が生じた場合には速やかに見直し、現状に即した新たな計画を作成し、サービスを提供している。	○	利用者・家族のニーズの把握及び心身の変化等に応じ、現状に即した計画作成をして行く。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って毎日の状況を個別のケースに記入し、勤務開始前に確認し、情報を共有しながら、サービス実践に反映させている。	○	ケース記録が前日と同じ内容が多いことから職員が入居者に対しての気づきを細かく記録していく必要がある。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの居室を利用したショートステイの利用や共用型のデイサービスの実施を行っている。	○	今後自主サービスに関しても、出来る範囲で対応していき、多機能化していきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏まつり以外、ボランティアや地域の方との協力は見られていない。地域の消防団とは交流を図り、連携を取っている。	○	地域資源の活用を考えることと、こちらからも地域に協力できるよう事業所のPR等をし、地域資材と協働を図っていきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用については実施していない状況。	○	利用者の意向や必要性に応じて他のサービスを利用する支援が出来るような体制作りをしていく。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて地域包括支援センターとの関りを持つことにより、地域包括支援センターからの入居者の紹介もある。	○	利用者の必要性に応じて権利擁護等を協働で行う必要がある。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がこれまで受診されている馴染みのあるかかりつけの病院で受診出来るように支援し、受診には出来る限り家族に対応してもらっているが、家族が同行できない場合は職員が対応し、家族に受診結果を随時報告している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族・本人が納得した場合は、専門医等に受診していただいている。受診の際には、専門医に詳しく日常の状況を説明したり、緊急の場合は連絡等をし、指示を仰いでいる。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により、看護職員との相談が気軽にでき又、看護職員と入居者は、顔馴染みの関係が出来ている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、本人の情報提供を行い、心身の負担の軽減を行うようにしている。また、家族や病院との連絡を密にし、本人の状況確認しながら、早期退院に向けた支援に心掛けている。職員が時間を見つけ見舞いに行っている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期ケアは実施していないが、その時の対応については家族に説明し意志統一が図られている。	○	重度化・終末期ケアについては、事業所・家族・本人の状況が変わる度に、話し合いを持ち、方針の確認と統一に努めていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期になった場合、利用者に対してのケアについては、家族とかかりつけ医と話し合い、利用者・家族に不安を与えないようにしている。	○	不安の無いように、十分な話合いを継続していく必要性がある。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際、他事業所に情報提供を行い、家族・本人が納得できるように、移動先の居所の見学及び説明を十分にし、納得した上で、住み替えていただけれるよう努めている。	○	住み替え先に、職員や仲の良い利用者が時間を見つけて面会に行き、精神的な不安を取り除きたい。住まいでも、暮らし方の継続性等に配慮し、きめ細かい連携を心掛けたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の助言を否定することなく、個々の誇りやプライバシーに配慮したケアを提供しており、声掛けについても十分に注意をしている。また、個人情報保護法についても理解しており、取り扱いについては家族・本人に了承を得て対応をしている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個人個人のペースに合わせた声掛けやコミュニケーション方法で自己決定がし易い様に支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく、利用者のペースに対して柔軟に対応できるように努力している。 個々が今までの生活スタイルを崩さないよう心掛けている。	○	個々のペースに合わせる様に努力はしているのだが、十分に対応しきれていない場合もある。これからは、多くの地域資材の活用やボランティアの育成等を行っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性の方に対しては、化粧・おしゃれを楽しんでいただける様に取組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し一人ひとりの好みを把握し要望に沿った食事提供、又利用者と一緒に調理・配膳・後片付けを行ったり職員が同じテーブルで食事を摂っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的に嗜好については自由であるが、きちんと管理栄養士が献立を作成しており、一人ひとりの状況に合わせ日常的に楽しめるようにはしている。病気によっては、主治医と協議する場合がある。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄リズムを理解し、トイレ誘導をし失敗、を減らすよう努めている。夜間はリハビリパンツ、日中は綿パンツにパットで対応し、排泄の力を高めれるよう支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯については、本人の希望を聞き、決めてはいるが、希望があれば毎日でも入浴できる。又、拒否が見られる場合でも個人個人に対して合った声掛け・誘導方法を職員が理解しているので、スムーズに入浴を行えている。	○	利用者の立場に立ち、職員側の都合とならないように常に注意している。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れ、夜間については安眠出来る様に努力してい。、不眠時は話し相手となり安心して入眠出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに役割を持たせ、出来た事に感謝し自信に繋げている他、好きなこと、出来ることを把握し、気分転換出来るように支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理しているが、一人ひとりの希望に応じ少額ではあるが本人に所持させている。又、行事での買い物でも職員の付き添いのもと、自分で会計をする方もいる。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援については希望通り出来ていない状況である。	○	希望を出来るだけ叶えられる様な計画及び、社会資源、ボランティアの育成等を行っていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事の際には、普段は行けないところ、本人の思い出の場所等を聞き、外出支援はしていないが外出行事の際には、一人ひとり行きたい所を聞き、利用者の意向に合った所に行くよう支援している。	○	今後、家族等とも協力し、普段行けない場所へ一人ひとりの希望を聞き、行くことが出来るように支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全利用者とはいかないが、定期的に電話・手紙のやり取りがある。	○	全利用者が、電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように、その方が出来ることを見つけ支援していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人・知人・家族が気軽に訪問出来る様に雰囲気作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、拘束はしないという姿勢で日々ケアを提供している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を掛けていないが、玄関等は夜間のみ鍵を掛けている。また、徘徊等により外出される方に対しては、職員の見守りの強化を行う取組みはしているが、十分ではない。	○	外に出たがる利用者は、その人なりの出たい理由があるので、本人の話を良く聞き、本人の思いを理解し、安心してもらえるような努力をしていきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的巡回や声掛けを行い利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等に関しては、出来るだけ利用者の手の届かない所に置き、包丁等は鍵を掛け保管している。日中については、利用者の状況に合わせた危険防止策に取組んでいる。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の作成・回覧、利用者一人ひとりの状態に応じて会議等で話し合い対応出来る様に取組んでいる。	○	事故報告書はあるものの、ヒヤリハットに関する報告・記録が無い為、今後、ヒヤリハットの記録を行い、危機管理を強化していきたい。また、危機管理の勉強会も行っていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が事故発生時の対応については出来ているが、応急手当等については出来ていない。	○	定期的な訓練を実施することにより、応急手当や初期対応を習得するようにしていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を行い、地域の方にも協力を得られる体制作りをしているが、食料・飲料・ポータブル等の用意がなされていない。	○	数日分の食料・飲料・防寒具等を用意するようにする。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりがリスクに対して把握しており、その都度ご家族とも連絡し対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・言動を観察し、変化・異変があれば速やかに情報を共有し、看護師・医師・ご家族へ報告し、対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については職員全員が理解しており、変更のあった際は看護師・全職員に申し送っている他、薬剤情報シートで確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄の確認と飲食物の工夫や運動を促しているが、どうしても排泄が無い場合は下剤を服用させている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行うように促し、出来ない方に対しては職員が介助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、利用者の嗜好に応じたメニューを管理栄養士に作成してもらい、栄養バランスの摂れた食事を提供している。食事・水分摂取量を記録し、十分でない方に対しては補助食等で支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを整備しており随時見直しを行っている他、勉強会を開催し知識を深めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は調理毎に漂白し・掃除は定期的に行っている。又、食材についても搬入時の確認と保管について十分に注意を払っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上玄関が分かりにくいが、看板を立てる等の工夫や玄関には季節に合った装飾をする等し、家庭的な雰囲気を出す工夫をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファーやテーブル・畳があり、その他の備品も家庭的なものとなっている。又、テレビの音量も適切で日差しに関してはブラインド等で調整し居心地良く過ごせる様にしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読む場所、テレビを見る場所、横になる場所、会話をする場所があり利用者が思い思いに過ごしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分が家庭で使っていた家具等が持ち込まれており、利用者が居心地の良い空間作りが行われている。	○	ご家族に対して利用者が自宅で使っていた家具等を持ち込んで頂ける様に協力を依頼していく必要がある。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、定期的に行うものの温度調節については十分とは言えない状況。	○	快適な生活を送れる様に、温度・湿度を定期的に記録している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや廊下に椅子があり工夫されているが、共有スペースから死角となる場所も多い。	○	死角となる場所については定期的に巡回している。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態を把握しており、必要に応じて、目印をつける等、混乱や失敗を防ぐ為の工夫をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や廊下にベンチがあり座って会話が出来る他、植物等を置き観賞出来るようにしている。		

(▨ 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・事業所としては、まだ理念は決めていないが、法人の基本理念に基づいて利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者がそれぞれの役割を持って、家庭的な環境で日常生活を送っていただけるよう配慮している。また、「出来ること」「出来ないこと」を見極め、「出来ること」に対する喜びを共感し、「出来ないこと」を無理強いするのではなく、また、諦めるのではなく克服できるように支援している。
・今後は、ボランティアの育成・社会資源の活用・インフォーマルサービスの利用等を積極的に行い、利用者一人ひとりのニーズに十分応えていけれるような環境作りをし、利用者・家族・職員が活力ある生活を送っていけれるようにしたい。